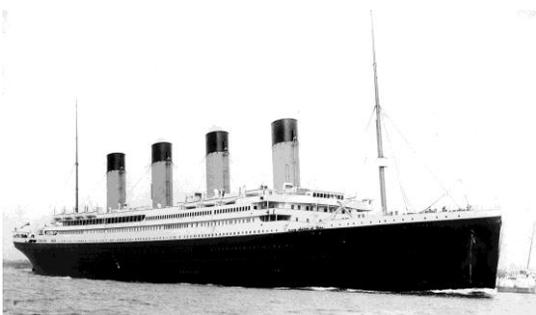


緊急事態への備え—タイタニックの惨事

2012年7月



2012年4月15日は、北大西洋で冰山とぶつかった後ほぼ2時間半で沈没した大洋定期船タイタニック号事故の100周年目であった。歴史上もっとも有名な海難事故で1500人以上が死亡した。タイタニック号の遭難については、多くのドキュメンタリーやフィクション映画が製作されただけでなく、何千ページものいろいろな文書が書かれてきた。多くは船の構造や船長や船員の行動に焦点をあてている。構造や操船の問題がどうあれ、一つの特別な問題—緊急事態に対する備え！—に注意していれば多くの生命を救うことが出来たであろう。

タイタニック号が沈没する前の緊急時対応準備の際の明確な失敗は以下のような点である。:

- 全ての乗客や乗組員用救命ボートの不足、おそらく建造者はこの船は“不沈である”と考えていたためであろう!
- 救命ボートの訓練が全く為されておらず、多くの人々はどこへ行くべきか何をすべきかを知らなかった。
- タイタニック号から離れた最初の救命ボートの多くは満員ではなく、乗り込んだ者の中には転覆を恐れ氷のように冷たい水から他の人々を引き上げるのを嫌がる者もいた。
- 船長や船員が損害を精査している間、船を放棄する決定が遅れた。人々がパニックになる前に、船長がもっと早く避難を始めさせていたら、もっと整然とした避難をし、より多くの救命ボートが一杯になっていたかもしれない。

あなたにできることは?

- ➔ プロセスプラントでは各種の非常事態訓練が行われるだろう。火災、漏洩や流出への対応、シェルターインプレース、避難、及び過酷な天候は、その一般的なものである。それぞれ異なるだろうが、各々の状況での自分の責任を自覚すること。
- ➔ 訓練中または実際の非常時に、何をすべきか覚えていない者、特に新人、訪問者や請負業者を見守り、安全に対応するよう手助けすること。
- ➔ 訓練中または非常時に発見した問題は何でも上司に迅速に報告すること。幾つかの例—許される時間内に行えない行動、非常事態では安全に処理できない事項、見えないとか紛らわしい非常口標識、聞えない緊急警報あるいはスピーカー、利用できないあるいは適切に作動しない必要な安全装置。所見を報告すること—それでいつか、命が救われるかもしれない。
- ➔ 真剣に反復訓練を行い、他の人にも同様にすべきことを気付かせること。訓練を他のプラントからの人に出会うひとときと考えてはならないし、訓練を社交的な行事にしてはならない。
- ➔ 他の業界の事故について読んだ時は、起った事故から自分のプラントをより安全にするために学べるかどうかを自問自答すること!
- ➔ 貧弱な緊急時の計画あるいは対応方法の知識不足のため、自分のプラントを“沈没”(破壊)させないようにすること。



プロセス安全の教訓は必ずしも自分の業界だけから得られるとは限らない!

AIChE © 2012. 不許複製。非営利的な教育目的のための複製は奨励する。但し、再販目的のための複製は、CCPS以外のいかなる者に対して禁止する。コンタクト先: ccps_beacon@aiiche.org or 646-495-1371

Beacon は通常、アラブ、アフリカ、中、デンマーク、オランダ、英、仏、独、ギリシャ、グジャラート、ヘブライ、伊、日、韓、マレー、マラーティー、ノルウェー、ベルシャ、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、露、スペイン、スウェーデン、テルグ、タイ、ベトナムの各言語で入手可能。